会員企業ご訪問

会員企業ご訪問 NO.2

近畿容器株式会社(大阪北支部)

今回は、大阪市北区に本社のある近畿容器株式会社(大阪北支部)の協会会員代表者である門田照敏様(代表取締役・副社長)をたずねました。なお、製造工程を拝見するため、大阪市鶴見区にある大阪工場をインタビュー場所に設定していただきました。

瀬谷崎　社長

門田　副社長

会社の設立は？

当社は昭和26年に容器の販売業者としてスタートいたしました。お陰様で来年設立50周年を迎えることができます。
設立当初は自社での製造は行わず、薬容器の問屋としてのスタートでした。
プラスチックが普及し、これらの容器が次第にプラスチックへと移行するにしたがい、鶏頭牛後(けいとうとなるもぎゅうごとなるなかれ)という言葉がありますが、小さな会社でも世界に通用するすばらしいものづくりを、という大西創業社長の情熱から、昭和38年、自社製造工場を稼動させ、平成6年、念願の新工場も竣工いたしました。

製造している製品などは？

プラスチック製オリジナル容器です。ほとんどが企画から自社で設計して製造しております。ハイベッセルと名づけたIATAに適合した容器はお陰様でお得意先からも多大な信頼をいただいております。

大阪工場は

ここでは、生産、品質管理、業務を行い、生産は現在では射出成形のみを行っており、他の成形法が必要な場合などは協力工場にお願いしています。新工場においては、1，2階に成形機を置き、4階に材料供給、3階に製品のストックと、製造行程すべてにおいてほぼ無人で行うことのできるシステムとしております。成形は5人程度で、6時半頃にはすべて帰宅し、工場内は消灯いたします。休日出勤もありません。しかし、材料の供給から製品のストックまで無人で動きますので、夜間・休日はストッカーが一杯になるまで成形が可能です。

インタビューに訪れたときは休日前であったので、社員の方々が、休日の自動運転の準備をされていました。

材料はほとんどが容器に使用するHDPE(高密度ポリエチレン)、中蓋に使用するLDPE(低密度ポリエチレン)、外蓋に使用するPP(ポリプロピレン)の3種類のみを使用するようにし、着色はマスターバッチ方式で行い、生産工程の合理化に努めております。

ものづくりの立場としてのお考えは

社員には常に「あたりまえのことをしっかりやる」ということを言っております。企業として社会に貢献するためには、挨拶、掃除など、常に基本をしっかりとしなければならないという当たり前のことですが、非常に難しいことです。
また、1994年のISO9001取得に合わせ、「常に市場の要求する製品を創造し製造する」ということをものづくりの方針としております。従来のプロダクトアウトの考え方からマーケットインの考え方へ、つまり、作ったモノを売るのではなく、必要なものをつくっていこう、という意味です。

なぜ、無人化を推進するのですか

1つは人間尊重です。社員には、時間にゆとりをもって創造的な仕事をしていただきたいですし、長時間単調な仕事をしていても能率はあがりません。
もう1つはクリーン化です。当社の製造する容器はラフなものから大変高価なものまでの容器としてあらゆるお客様にご使用いただいておりますので、品質には最新の注意を払っております。

工場に入る前には必ずここを通って、衣服についたホコリを空気で吹き飛ばします

とくに電子材などの容器としてご使用いただく場合などはほんの小さなチリでも品質に大きな損害をもたらすことになります。なるだけ製品が人間の手に触れる機会を減らすことにより、そういったミスを未然に防ぐ狙いもあります。
最後は多品種少量生産への対応です。油圧クランプを採用したワンタッチ金型交換システムを成形機に取り付け、迅速な多品種生産を目指しております。
大阪市内に工場を構えて国際競争に勝ち残るには、自動化しかないというのが私の考えです。

業界の問題点は

当社は台湾にも別会社を設立しており、海外でもそうなのですが、ある時、お得意先よりクレームがあり出向いたところ、全く別の会社の製品であったということがありました。現場の担当者がいつからか当社以外の製品に変えていたというのが原因でした。我々の扱う容器は内容物を入れるためのものであり、いわば「縁の下の力持ち」のため、担当者が価格のみで選択されたのも止むを得ないのですが、やはり、悩みは価格と品質を大幅に落とした類似製品が出回るということです。

今後の方針は

製造工程における無人化をさらに進め、品質管理等も検査の自動化をすることにより、最終的には“成形＝即完成品”という形に持っていきたいと考えます。また、先代が亡くなり、「自分だけで精一杯」であった時期をなんとか乗り越え、最近では全社がまとまってきて、前向きになってきたと感じております。これを今後の自信とし、今後は38年建設の旧工場を建替えたいと計画中です。

協会への要望等について

さまざまな業界団体がありますが、この協会は、大変活発な活動をしていると思います。事務局も個々の経営課題についてよく勉強されていると思います。
しかし、これだけ新たな技術が増え、高度化してきますと、いくらこの情報社会においても、本当に欲しい技術の個々具体的な情報の入手は、非常に困難な事ですので、今後、会員の技術的な課題の問題解決に応じて対応していただける相談室的なものを設けていただきたいと思います。
もう一つ、私も情報サービス委員長として改善していかなければならないと考えるのは、情報の流し方についての改善です。帰社すると、机にはFAXの山です。活発な活動の成果ではありますが、順次電子メールに移行する、あるいは、ほとんどは会員代表者宛に送信しているのですから、複数の情報を1枚にまとめるなどの工夫も今後検討していく必要があるのではないかと考えます。

ありがとうございました。